令和７年度　地域発　元気づくり支援金　事業評価

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費（単位：千円）		講評
				総事業費	交付額	
1	テンリュウ堂×ローカルDAO地域共創プロジェクト	天龍峡デジタル住民部	天龍峡地域では、観光客の減少や地域経済の衰退などの課題があり、従来の観光施策だけでは持続的な観光地としての発展が難しくなっている。そこで、天龍峡地域で開始している、地域内外から集まった「デジタル住民」で構成される仮想の地域共同体『Local DAO』プロジェクトを活用。 観光客減少や地域経済の低迷という課題に対し、地域住民とデジタル住民を対象に天龍峡で毎月イベントを行い、交流会等を行うなかで、地域住民やデジタル住民が協働で地域資源の活用や地域課題の解決を図るプロジェクトを複数立ち上げ、それぞれのプロジェクトが独立して動き出すよう働きかけていく。また、天龍峡地域で目立つ空き家問題の解決のヒントとして、空き家ワークショップを開催。 さらに、これらの取り組みと連動して天龍峡の魅力を効果的にPRするため、Webサイトやデジタルサイネージを活用したプロモーションを実施。 ①チラシ・ポスター・Web制作費、ワークショップの運営委託、観光アドバイザー委託費 ②デジタルサイネージ	5,141	4,014	地域住民とデジタル住民の協働により、地域課題の解決や地域資源の活用に向けた新たな取組を創出したほか、情報発信を通じて関係人口の拡大が図られた。特に、地域内外の多様な人材が継続的に関わる仕組みを構築した点は先進性が高く、今後の地域づくりのモデルとなる取組として評価できる。今後は創出されたプロジェクトの自走化と継続的な活動への発展により、更なる波及効果が期待される。
2	たかもりユースサマー～若者がつながる日～	高森町	令和6年度に町が町在住及び町出身者の若者を対象に実施したアンケートで、「町に住む若者と町外に住む高森町出身者の若者が交流できるイベント」を希望する方が多くいることが分かった。そこで、町にこれまで縁のなかった若者も含め、高森町に住む若者と町外に住む若者が交流できるイベントを企画。 イベントではニュースポーツ等参加者が楽しみ交流できる企画や焼き肉による交流会を企画。また、町内企業のPRタイムを設け、企業が若者に直接的にアプローチする機会を創出することで、企業にも本事業のメリットを感じてもらい、次年度以降は協賛金を募り、持続的な開催を目指していく。 ①司会者謝礼、交通費、交流会費、参加者交通費	350	245	地域内外の若者が交流し、高森町での暮らしや仕事への理解を深める機会を創出したことにより、若者の地域への関心向上に寄与した。アンケート結果からも地域内事業所への認知度向上や就職意向の醸成が見られ、一定の成果が認められる。今後は地域事業者との連携をさらに深め、継続的な関係づくりにつなげることが期待される。
3	まめで元気な売木村～山の神と人の暮らし魅力発掘～継続発展	うるぎ豆まめ舎実行委員会	過疎化が進み、住民の約4割が移住者という売木村では、地区ごとの祭り等伝統文化の維持が難しくなっている。令和6年度より、関係人口の創出や移住者の関心を高めることにより、地区の伝統文化の維持を図ることを目的に事業を実施。 令和7年度は、令和6年度に制作した売木村を題材にしたオリジナルの物語を舞台化し、披露したり絵本にしたりすることで、地域の伝統や地域の姿を発信。売木村に対する村内外の関心を高めた。 また、令和6年度からの継続として遊休農地を活用して大豆を栽培し手作りの豆腐を作るイベントを回数を増やして実施し、豆腐を各地区の祭りに合わせて奉納する取り組みを行い、各地区の祭り等への関心を高めながら、手作り豆腐をテーマに村内外の交流を生み出す。この一連の流れは動画にし、発信。 令和9年度には豆腐づくりの拠点として豆腐工場を立ち上げ、村内外の人が手作り豆腐をつくり祭り等の奉納も行っていきながら、継続して豆腐をテーマに村内外の交流を生み出していきたい。 ①舞台公演費、動画配信費用、豆栽培費用、特産品開発費用	3,372	2,697	伝統文化継承を切り口に、関係人口創出、農地活用、交流促進、特産品づくりを一体的に進める取組であり、過疎地域における地域づくりモデルとして、波及性と発展性を有する。 一方で、各事業の関連性が薄く、伝統文化継承の手法や交流促進事業の改善等が求められる。
4	介護就労を目的とする外国人労働者の支援・交流事業	飯田短期大学（飯田市）	介護人材不足のなか外国人介護人材の受け入れが進んでいるが、言語・文化の違いがあり介護施設・事業所での受け入れは容易ではない。そこで、南信州地域で外国人介護人材を受け入れている施設・事業所が連携する組織として外国人介護人材支援協議会を発足し、課題の共有と解決策の検討を行い、合わせてラマダンやハラルフード等の異文化を学ぶ講座を開催。 また、外国人介護人材向けに上述の施設等と連携して介護現場で使う日本語教室や介護食教室、交流会を開催したり、利用者や利用者家族と外国人介護人材との交流の実施、施設職員や一般住民向けに外国人労働者との共生を学ぶ教室を開催。 ①チラシ印刷費、テキスト代、イベント保険、消耗品、講座講師謝金、介護食教室食材費 ②プロジェクター	534	415	外国人介護人材の受入れに伴う課題に対し、関係機関の連携体制構築、日本語学習支援、異文化理解及び地域交流を総合的に実施した点が評価できる。介護人材確保と多文化共生の推進の両面に寄与する取組として意義が認められる。今後は参加施設等からのフィードバックを活用し、更なる事業改善と横展開を図られたい。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円）		講評
				総事業費	交付額	
5	その元気足から応援します！	飯田短期大学（飯田市）	中高生世代がスポーツを楽しめる環境整備を行い、また大人世代の健康増進を図るため、それぞれの世代を超えて交流できるスポーツの企画及び歩行から健康づくりを考える講座を実施し、科学的なデータに基づき生涯多様なスポーツに親しむことができる健康づくり事業を実施。 中高生とその親世代を対象に多様なスポーツを楽しめる体験会を行った。また、中学生以上の世代を対象に健康増進教室を行い、運動の指導を複数回実施し、0日目と42日目で健康状態に変化があったのか、実感していただく機会とし、それぞれの取り組みの中で足裏圧の測定を行い、正しい歩行姿勢や歩行リズムの講習を行い改善を確認した。 ①広報費、講師謝金、消耗品 ②足裏圧測定装置	1,512	1,028	世代間交流と健康づくりを一体的に推進する取組として評価できる。足裏圧測定や歩行講習などにより健康状態の可視化を図り、健康意識の向上や行動変容につなげたほか、多様な世代が交流する機会の創出にも寄与した。今後は継続的な効果検証を行い、地域全体への波及を図られたい。
6	「地域のために自分のために未来のために」つながりを広げる傾聴のためのテキストつくり	傾聴ボランティア「和（なごみ）」	地域の高齢者を対象に、住民同士のつながりや開かれた地域づくりを目指し傾聴活動を行ってきている。ボランティアも高齢化のなか、傾聴活動を未来につないでいくため、現在活用しているテキストに未来のためにという視点を加え、小中学生や若者等にフォーカスした視点も盛り込んだ新たなテキスト制作を行った。 テキスト制作の過程において、小中学生や村民等を対象にした勉強会や傾聴体験等を実施。。完成したテキストを用いて多世代に傾聴活動を広めていき、傾聴ボランティアを後世につなげる。 ①テキスト制作費、講師謝金	892	661	講演会やワークショップの実施により、多世代が傾聴について学ぶ機会を創出するとともに、社会情勢の変化を踏まえた新たなテキストを作成し、活動の継承基盤を整備したことは評価できる。今後は作成したテキストを広く活用し、担い手の確保や地域における支え合い活動の充実につなげることが期待される。
7	「みんなでつくる明日の図書館」	飯田市	読書をする人や本を読んで考えを伝えあう読書会の機会が減少するなか、図書館を拠点とし、本を通じて人と人との新たな交流や多様な考えに触れ、学ぶ機会を創出し、図書館を拠点にした地域住民との協働の企画を生み出すことを目的とした事業。 本と人との交流の場づくりに取り組んでいる講師を呼んだ講演会やグループディスカッションの開催、図書館のPR動画の製作、住民がやってみたい企画を募集し実行してみる図書館マルシェ等を実施し、図書館をきっかけに住民が主体となった活動を創出した。 ①講師謝礼、チラシ等印刷費、消耗品	1,325	991	図書館を拠点として、多様な世代や価値観が交流する場を創出するとともに、住民主体による新たな活動の創出につなげた点を高く評価。図書館マルシェや読書活動を通じて住民の主体的な参画を促し、地域コミュニティの活性化に寄与した。公共施設を活用した協働のモデルとして波及性が高く、今後の継続的な発展が期待される。
8	南信州の民俗芸能による関係人口の創出拡大事業	南信州民俗芸能継承推進協議会（飯田市）	民俗芸能の担い手による地域外（関西）での上演の機会の創出を行い、担い手の誇りを育むと共にパートナー企業と連携した事業や地域外団体との交流等の繋がりの拡大を目指した事業を行うことで南信州の民俗芸能の継承推進を図った。 また、地域外の人が民俗芸能を観覧したり民俗芸能に参加したりする際の教科書(仮称)を作成するため、各民俗芸能団体や地域外イベント参加者に調査をし、最大3年かけてまとめ上げ、南信州民俗芸能ナビに公開。同時にファンクラブを活用しながら、遠方に住んでいても南信州民俗芸能に関わり続けられる仕組み作りを行った。 ①紹介映像英語字幕編集費、地域外上演に係る出演団体謝金、広報費等、カレンダー制作費、講師謝金等	3,254	2,450	地域外での公演や情報発信を通じて、民俗芸能の価値を再認識する機会を創出するとともに、新たな関係人口の創出に取り組んだ点が評価できる。また、教科書（ガイド）作成やファンクラブを活用した情報発信は、継続的な関わりを生み出す仕組みづくりとして有効である。今後は実際の参加者獲得や担い手確保など、具体的な成果につなげることが期待される。
9	「井月千両の道」ルート設定案内事業	高森文化ユニット内「井上井月顕彰会下伊那支部」（高森町）	下伊那地域の縁のある俳人「井上井月」について、文化の普及や教育活動、地域資源として観光への活用を図るため、令和4・5年度に引き続き縁のある地に句碑を2基建立。これにより井月縁の地をつないだ井月千両の道がルートとして完成するため、これをマップ化し地域住民への勉強会、町役場とタイアップしたウォーキングイベントの開催、ルートをたどり詩歌を募集する吟行ツアーの開催、句碑巡りを開催。 ①イベント開催に係る消耗品等、ルートマップ等印刷費、句碑案内板制作費 ②句碑建立費用	922	628	句碑整備に加え、ウォーキングイベントや吟行ツアー等を実施することで、地域文化への理解促進と交流人口の拡大が図られた。地域資源を活用した文化観光の推進や郷土への愛着醸成につながる取組として評価できる。今後は周辺観光資源との連携を進め、より広域的な誘客につなげられたい。
10	昭和歌謡レコードを活用した地域振興拠点整備事業	阿智つくりびとの会（阿智村）	阿智村の伍和地区中心にイベントやオリジナル商品開発を行っている団体と、飯田市で昭和歌謡レコードを収集し企画展を行っている団体が連携し、阿智村伍和地区の商店の空きスペースを昭和歌謡レコード博物館として整備。 SNSやパンフレット等によりPRし全国から来場者を集め、博物館を観光コンテンツ化し、レコードや昭和にちなんだ企画を多数実施。来場者からも企画を募り、リピーターの獲得を目指す。 ①チラシ、パンフレット、チケット制作費、新聞折込費　等 ②改修工事費	2,474	1,832	新たな観光コンテンツの創出と地域活性化を図る事業として評価。 展示にとどまらず、昭和文化やレコードに関連した企画の実施や来場者参加型の仕組みを取り入れることで、継続的な話題創出とリピーターの確保につながった。
11	水害・土砂災害から生命を守る	飯田市	災害時の逃げ遅れゼロを目指す事業。 令和5年度、令和6年度に引き続き、市内で特に災害リスクの高い地域からモデル地区を選定し、ダンボールジオラマを活用して地域の災害リスクを理解し、必要な備えを学ぶワークショップを行った。また、モデル地区を選定し、段ボールジオラマを活用して地域の災害特性等を確認し、地域独自で避難ルールや避難マップを作成するワークショップを行った。 また、3年目の新たな取り組みとして、過去2年間でワークショップを実施した地区において、事業の中で作成した避難マップを活用し実際に住民が避難をする事業を行った。 ①ワークショップ委託料	990	742	地域住民が話し合いを重ね、地域独自の避難マップや避難ルールを作成して27世帯すべてに配付するとともに、避難を呼び掛ける率先安全避難者6人を選定した。避難訓練には665人が参加し、住民同士で避難を支え合う体制づくりが進められた。引き続き、避難マップや飯田市防災アプリを活用した訓練を行い、地域の実情に合った避難体制として定着させていくことが望まれる。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円）		講評
				総事業費	交付額	
12	パッククッキングに特化した防災講習会を開催する事業	天龍村災害支援チーム	被災時に備え、パッククッキングの講習会を実施。 実施に当たっては電気や水道等が停止していることを想定し、ガスコンロを使って地域住民が冷蔵庫の食材を持ち寄って調理する場面で役に立つ体験型の講習会とした。備蓄の見直し等、自助努力による災害への備えを住民に啓発を図った。 ①ガスコンロ、鍋、体験会食材、消耗品等	451	334	災害時の「食」に着目し、身近な食材と限られた調理器具で温かい食事を作るパッククッキングを実践的に学んだ。講習会では23人が15品を調理し、日頃の備蓄や住民同士で助け合うことへの理解を深めたほか、保育所や学校等での啓発により、子どもから家庭へ防災意識を広げた。今後、孤立時に課題となるトイレなどにもテーマを広げ、講習会を重ねることで、地域の備えがさらに充実していくことを期待したい。
13	2050ゼロカーボン普及啓発事業	南信州環境メッセ実行委員会（飯田市）	南信州環境メッセ2025を開催し、温室効果ガス排出削減目標の達成と持続可能な脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの普及や循環型社会構築の気運を一層高め、多様な主体が協働して気候変動対策に取り組む環境先進地域づくりを図った。 南信州環境メッセ2025ではゼロカーボン、再生可能エネルギー等テーマ別の各種団体による出展、体験講座のほか、南信州地域の企業が持つ環境や社会に配慮した商品を広く紹介し販路拡大に結び付ける環境産業見本市を開催。 令和7年度は新たに、当地域で注目を集めている「水素」をテーマに、講演会や体験講座、燃料電池自動車の展示等を実施し、最先端技術の知識習得、意識の醸成も図った。 ①メッセ開催委託料、備品使用料	5,271	3,874	水素をテーマとした講演や体験講座、企業展示を通じて、子どもから事業者まで幅広い世代が環境技術に触れ、交流する場となった。来場者は1,657人と前年度を上回り、環境産業見本市の出展者も32者に増加するなど、ゼロカーボンの普及と地域企業の技術発信が一体的に進められた。木工作ワークショップとの同時開催など内容をさらに充実させ、県外からの来場にもつながる「環境先進地・南信州」の発信を期待したい。
14	南信州エコドライブ10,000人プロジェクト	飯田脱炭素社会推進協議会（飯田市）	自動車利用率が高い長野県において、CO2削減に向けて実車での講習を中心とした「エコドライブ」を普及させる活動を実施してきており、エコドライブ講習の受講者が令和2年度に1000人を突破したところ。さらなるCO2削減に向け、エコドライブ10,000人プロジェクトとして10,000人の受講者を目指すため、講習用のシミュレーターを行う機械を購入し、常設での講習とイベントでの出展による講習、企業への出張講習を行い、受講者の増加とエコドライブの普及につなげた。 ①インク購入 ②エコドライブシミュレーター購入	771	577	自動車利用率が高い地域特性を踏まえ、エコドライブの普及を通じてCO_2排出削減を推進する事業として評価。 地域全体の環境意識向上と脱炭素社会の実現に向けた波及効果の高い事業。
15	高森町ゼロカーボンシティ実現事業	高森町	高森町はゼロカーボンシティ宣言をして取り組みを進める中、さらなる推進に向け、町民や企業が関心を持ち、行動に繋げるような取り組みが必要。 町内の企業数社にモデル的にGXアドバイザーを派遣し、CO2排出量診断及び削減に向けた伴奏支援を行い、CO2排出量・削減量の見える化や削減促進に向けた助言を行った。合わせて、委託業者により取り組み結果の報告書を作成し、町内の全企業への配布や町の広報誌掲載、ホームページ掲載等により周知し、横展開を図った。 また、ゼロカーボン啓発グッズを作成し各種イベントや学習会で配布し、講師を招いて小学校で地球温暖化に関する授業や町民を対象にした体験型の学習会を実施。幅広い世代にゼロカーボンへの理解を深め、行動に移していただく機会を創出した。 ①CO2診断等委託料、ゼロカーボングッズ制作費、環境学習講師謝礼、消耗品	4,515	3,611	小学生から一般住民まで幅広い世代を対象とした環境学習や啓発活動により、ゼロカーボンへの理解を深めるとともに、日常生活や事業活動における継続的な行動変容につながる効果があった。 特に、町内企業を対象としたCO_2排出量の見える化やGXアドバイザーによる支援は、具体的な行動変容につながる実践的な取組。
16	あてび平小鳥の森環境・生物多様性保全事業	売木村	国定公園であるあてび平小鳥の森公園の環境保全と景勝地としての魅力の発信・再発見のための取組を令和5年度から実施。これまでは進入禁止エリアの看板の新設等の公園の整備やガイドウォーク・バードウォッチングイベントの開催による魅力の発信等に取り組んできた。 令和7年度はウォーキングイベントやバードウォッチングイベントを継続し、加えての森のヨガ体験やノルディックウォークイベントを実施。また老朽化した東屋等の除却等やベンチの設置による公園整備を行い、森林浴としての魅力向上や滞在時間の増加を図った。 また、あてび平小鳥の森サポーターを創設し、巡回や美化活動、イベントへの協力や村への情報提供等を行ってくれるメンバーを募集し、村と連携した活動を行っていくことで持続的な公園の維持管理を図った。 ①チラシ・ポスター印刷費、イベント講師、探鳥会講師謝礼、ノルディックポール ②ベンチ設置、東屋・トイレ、看板撤去費、	4,415	3,016	ガイドウォークや探鳥会に加え、ヨガやノルディックウォークを取り入れ、自然環境に配慮しながら森の多様な楽しみ方を体験する場を設け、延べ80人が参加した。また、ベンチ10基の設置や倒壊した東屋等の撤去により、景観の改善と利用者の安全性・利便性の向上につながった。今後は、小鳥茶屋の活用や地域住民等との連携を進め、地域とともに自然環境を守り、親しむ取組として継続されることが望まれる。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円） 総事業費	事業費 （単位：千円） 交付額	講評
17	伴野運動公園美化支援整備事業	豊丘村	伴野運動公園（なしっ子公園）の親水池は夏場を中心に多くの親子連れの方に利用されている。しかし親水池では温度の上昇から藻が発生し、滑りやすく危険な状況になっている。現在は地区の一部の役員が週に1回以上清掃を行っているが、高齢化が進んでいる中、現在の頻度・体制では維持管理を図ることが難しくなっていき、今後利用者の事故の発生や利用頻度の減少が懸念される。 今回、屋根を設置し藻の発生を抑制したことで、きれいで安全な親水池となり、子育て世帯を中心に公園の利用者が使いやすい公園となった。また、清掃頻度が減少するのに合わせて公園の利用者や地域住民が継続的に維持管理に関わっていくよう、清掃サポーター制度を整備し、サポーターを募って美化活動を実施し、持続可能な維持管理を図った。 ②屋根設置費用	2,356	1,570	親水池の安全性向上と維持管理体制の持続可能性確保を目的に、施設整備と住民参加を組み合わせて取り組む事業として評価。 一方、住民参加を促す手法等についてはさらなる工夫が必要。
18	『南信州シードル』プラットフォーム構築（第二期）	NPO法人国際りんご・シードル振興会（飯田市）	南信州シードルの認知度や消費が伸び悩んでおり、また、シードルと他の地域の観光資源と連携した取組が行われておらず一体的な発信ができていないという課題がある。 そこで、シードルの生産者のSNSの活用状況やオンラインでの受注状況等を把握し、シードルの生産者及び地域の観光農園等を対象にしたデジタルマーケティングのセミナーの開催及びシードル生産者等がデジタルマーケティングを実際実施し、専門家が伴走支援する取組を実施。 また、シードルを販売している道の駅等にシードルの有識者を派遣し、来訪者に直接シードルの魅力を伝える取り組みや観光農園でリーフレットを配布し観光客等にシードルを知ってもらう取り組みを行った。 さらに、地域協働事業として、住民、事業者、消費者等が一体となってSNSで情報発信するキャンペーンを実施した。 ①セミナー等講師謝金、有識者謝金、会場使用料、HP改修費、イベント委託料	2,068	1,611	南信州シードルの認知度向上と消費拡大に向け、生産者のデジタル活用支援、観光資源との連携、地域一体となった情報発信を組み合わせて取り組む事業として評価。 地域全体でシードルを応援する機運を醸成し、ブランド力向上と関係人口の拡大につながる波及効果の高い事業。
19	伊那路・木曽路の広域での市民協業による持続可能な観光コンテンツの開発及びプロモーション	伊那路・木曽路広域観光連携会議（飯田市）	南信州を含む伊那路・木曽路地域で連携し、観光地域づくりに主体的に住民が参画し、インバウンドコンテンツの造成やプロモーションを目指す事業を令和6年度から実施。 昨年度住民協働により開発したインバウンド向けのサステナブルツーリズムコンテンツをブラッシュアップし、ツーリズムEXPO2025へ参加。また、国際商談会へも参加し、プロモーションを行った。 昨年度構築した三地域プラットフォームウェブサイト（三地域の観光商品を含めた情報発信と総合的な問合せ窓口機能を持つ）を発展させ、販売チャネルの開発とデジタルプロモーションを行った。 ①コンテンツ開発費用、商談会等参加費、旅費、販売冊子印刷費、プラットフォームウェブサイト開発費	2,887	2,309	上伊那・南信州・木曽の住民や観光関係者が連携し、地域の人との出会いを生かした訪日客向け旅行商品を4件造成した。国際商談会では海外旅行会社50社と商談し、新規取引につながったほか、三地域の観光情報を発信するウェブサイトは米国・豪州を中心に3,000人を超える利用があり、具体的な商談も生まれた。今後も住民の参加を広げ、商品の磨き上げや受入体制の整備を進めながら、三地域を巡る観光へ発展していくことが望まれる。
20	杵原学校魅力発信ブースト事業	山本地域づくり委員会（飯田市）	飯田市山本の旧山本中学校である杵原学校は、当団体が飯田市から指定管理を受けて管理や活用を行っている。杵原学校は桜の名所であり、また映画のロケ地になる等地域の観光資源であるが、外部への発信力に課題がある。 今回、ライブカメラを設置し(株)飯田ケーブルテレビからリアルタイムの映像を配信し、桜だけでなく1年を通して情報発信。また、学校内に水引の展示を整備し、水引の情報を載せた杵原学校のリーフレットを作成することで、桜以外の杵原学校の魅力の発信をするとともに、新たな水引の情報発信拠点化を図ることで、水引文化の振興を図った。 ①リーフレット作成 ②ライブカメラの設置	915	689	地域資源の魅力向上と観光誘客の促進につながる取組として評価。 桜シーズンに限らず年間を通じた情報発信が可能となり、杵原学校の認知度向上や来訪機会の創出が期待される。
21	天龍峡工場復活PJ。移住体験の場所づくりを進め、賑わいづくりを図る	天龍峡工場復活PJ	飯田市天竜峡エリアでは人口減少、高齢化により事業者の閉業が相次いでおり、地域の衰退が顕著である。また、地域の移住相談においては移住後のイメージがわかず移住に至らないケースも多い。 天龍峡にある元製菓工場の空き家をリノベーションし、1階をコワーキングスペース、2階を移住体験住宅として運用することで、移住や二拠点生活の相談者がお試し移住することで実際の生活のイメージを持ってもらうことができ、移住や二拠点生活者の確保を図る。実際の二拠点生活の際には地域の宿泊施設を使ってもらうことにより、宿泊業の促進を図った。 また、りんご農園と提携し、「農業体験＋ワーケーション」プランを提供したり、天竜峡国定公園の遊歩道の休憩所としての利用、企業などのリモートワークとしての利用場所としても提供し、この地域の新たな賑わいを生み出す拠点とした。 ①ワークショップ実施広告費、事務用品費 ②建物改修費	4,650	3,512	空き家となった旧製菓工場を、コワーキングスペースと移住体験住宅として再生し、移住促進、関係人口創出、地域産業活性化を一体的に進める事業として評価。 農業体験とワーケーションを組み合わせたプログラムにより移住希望者や二拠点生活者が実際に地域で暮らしながら働く体験ができる環境を整備することで、移住後の生活イメージを具体化し、移住や定住の促進につながった。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円）		講評
				総事業費	交付額	
22	阿智村全村博物館　地域資源活用事業	一般社団法人　阿智村全村博物館協会	阿智村には星空や昼神温泉といった観光コンテンツがあるが、日中の観光コンテンツが不足している。当団体では、運営する交流拠点「つぼや」で五平餅づくりを体験提供したり、農村案内ツアー等を実施したりし、日中の観光コンテンツづくりを進めている。 今回、キッチンを改修して飲食店の営業許可を取得し、地域住民と協働でリンゴスイーツ体験、提供イベント等地域の食をテーマに体験メニューを拡充し、令和8年度からは地域住民のシェアキッチンイベントを実施する等、地域協働で体験プログラムづくりを行っていく。 また、地域の歴史を伝えるコンテンツ作りとして阿智村の風景等を写したネガフィルムのデジタル化ワークショップを行い、つぼやにて展示するほか、情報発信や案内ツアー、昭和レトロをテーマにした街歩きイベント等にて活用。 ①写真デジタル化機材 ②写真デジタル化機材、施設改修費	3,340	2,518	キッチンを整備したことで地域の食や歴史資源を活用した体験プログラムが充実し、阿智村における日中の観光コンテンツの創出につながった。また、地域住民と協働したイベントやワークショップを通じて、観光振興と地域の魅力発信の両面で効果が期待される。今後は、今回カメラを購入して現像した「熊谷元一」の写真を中心に、継続的な体験提供や交流人口の拡大につながる展開が望まれる。
23	源氏物語帚木プロジェクト	源氏物語帚木プロジェクト	阿智村園原は2024年のNHK大河ドラマ「光る君へ」に登場する「帚木」の故郷としてゆかりのある地域である。ドラマを契機に村内外に園原地区を周知し訪れてもらい、そこから地域の歴史遺産・古文学に親しむ流れをつくり、地域の活性化につなげていく。 令和5年度から継続事業として、源氏物語や帚木に関する講演会やイベント等を実施し、地域住民の理解と身近にある歴史遺産の興味・関心を高めてきた。令和7年度は、観光客誘致の促進と地域住民の継続的なプロジェクトへの参加に向け、源氏物語の講演会や東山道のウォーキングイベントを継続実施。 また、新規事業としてドラマに携わった書道家を招いての書道イベントや簡易に着られる十二単衣装と撮影スポットの制作・設置の実施や、歴史ガイドの中からインバウンド向け対応ができる方を養成。 地域の歴史遺産・古文学に親しむ流れを生み出していき、園原地区を起点として、東山道神坂峠を経由した妻籠・馬籠宿から阿智村への観光の流れへとつなげた。 ①イベント講師等謝礼、広告宣伝費、チラシ等制作費 ②撮影スポット衣装・タペストリー制作費	6,024	4,357	NHK大河ドラマ「源氏物語」の放送直後だったため、書道などに関心のある方が多く、光る君へのドラマ題字を担当した講師のイベントには県外から多くの人が訪れ、阿智村の魅力発信や認知度向上に貢献。 歴史好きな方をターゲットに1年を通して効果的にPRができたため、今後も継続したファン獲得活動が期待される。
24	星の村七夕まつりプロジェクト	阿智昼神観光局（阿智村）	放置竹林や竹害の問題という課題に対し地域と連携して解決に取り組むため、地域の学校等と連携し伐採した竹を活用し「竹あかり」を製作するワークショップを行った。 ワークショップで製作した竹あかりを観光施設等に設置する「星の村七夕まつり」を開催し、阿智村の星空と合わせて各種プロモーションを行い、星と竹を絡めたイベントを用意することで、観光客と住民双方が参加できるイベントとし、竹林の問題の周知や地域内外で一緒に取り組む人を増やしながら、竹林を地域資源として活用することで観光客の増加も図った。 ①イベントプロモーション広告宣伝費（WEBページ、チラシ、新聞広告等） ②竹あかり製作費	8,300	5,000	放置竹林という地域課題に対し、間伐した竹を観光資源として活用し、住民、事業者、学校が協働して竹あかりを制作。工具（卓上丸ノコ）整備により30人以上が同時に作業できる体制を整え、地域で600本、学校との連携で50本を制作し、既存作品を含め村内各所に800本以上を展示した。 宿泊施設でも自主的な制作・展示が行われ、学校から翌年度の継続依頼が寄せられるなど、制作の担い手と展示場所が地域内に広がった。 さらに、竹あかりの展示を核として、宿泊施設や飲食店等が別財源により、願いごとキャンペーンや特別宿泊プラン、限定メニュー等の関連企画を展開し、OTAサイトへの広告掲載やテレビCM等による情報発信を実施することで、地域全体の観光事業への波及も見られる。 今後は、整備した工具と蓄積した制作ノウハウを生かして地域主体の制作を広げ、有料体験等による収入確保も進めながら、持続的な運営につなげていくことが期待される。
25	地域ブランディング事業	阿智昼神観光局（阿智村）	村内各地にある星空以外の地域資源を発信していくため、令和6年度は伍和地区のザゼンソウ公園を整備し、ザゼンソウ祭りを復活させた。令和7年度はさらに看板整備等を行い、ザゼンソウ公園・祭りの受け入れ環境の向上と魅力のPRを図った。また、令和5・6年度に引き続き住民にインタビューしながら各地区の魅力をまとめたWebサイトを制作し、令和7年度にて村内の全地区を網羅。 さらに、住民協働で阿智村の歴史・伝統を基に短い小説を制作し、PRに活用するほか、小説を活用し住民ガイドの育成を図り、阿智村の全地区で住民による歴史ガイドが可能となることを図った。 ①WEBページ制作費用、ワークショップ開催費用、作家講師料 ②看板制作費	4,532	3,352	地域住民への聞き取りを基に、昼神・浪合・清内路・駒場の魅力を紹介するウェブページを制作したほか、住民や観光客約30人が地域の歴史や文化を物語にするワークショップを行った。座禅草公園への誘導看板も整備し、地域資源の発掘、住民参加による発信、受入環境づくりを一体的に進めた。 今後は、情報更新や座禅草まつりを継続し、物語を地区ガイドの育成にも生かすことで、村内周遊と地域への愛着が広がることを期待したい。
26	向日葵の生産及びこれを利用した事業	平谷村観光協会（平谷村）	平谷村のシンボルである向日葵を活用し、令和5年度から支援金を活用して地域住民とともに向日葵の育成及び油の製作、向日葵畑を活用した迷路イベント、インスタグラムを活用したフォトコンテストを実施。 令和7年度はこれらに加えて新たに販路拡大に向け愛知県でのイベント出店や勉強会による向日葵の育成に関わるボランティアの育成を行うほか、企業等と連携した油を活用した特産品の開発等に取組んだ。 ①向日葵生育の種や資材代、イベントポスター、景品代	794	515	事業全体として実施に遅れが生じたことから、ひまわり油の販売は当初計画を大きく下回る結果となった。また、担当者の変更に伴い、予定していたボランティアの育成等が十分に実施できず、事業目標の達成には至らなかった。 今後は、運営体制の強化を図るとともに、支援金終了後も継続的に事業を実施できる仕組みの構築が望まれる。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円）		講評
				総事業費	交付額	
27	オールフィールドうるぎ～all field URUGI～	売木村	売木村内の観光施設や開催されるイベント等では、それぞれの連携が不足しており、観光客も1か所を目的とした方が多く、村内周遊やリピーターに繋がっていない。 観光施設や実施されているイベントや本事業で新たに立ち上げる農業体験イベント等の観光情報を「売木村年間満喫ガイドマップ」としてまとめ、掲載している施設やイベントを巡るスタンプラリーを実施。スタンプの数に応じて村の特産品等の景品を贈った。これにより、各観光施設やイベント事業が連携し、一丸となった情報発信を行うとともに、年間を通じて売木村の訪問につなげた。 また、事業をきっかけに売木村一丸となった観光発信を行うため、各事業者をつないだ観光つながり協会の立ち上げに向け会議を複数回開催。令和9年度で組織の立ち上げを目指している。 ①PR用のぼり、チラシの製作費、スタンプ制作費、景品、講師料 ②レンタサイクル（子供用）	1,831	1,448	村内に点在する観光・農業資源を「村全体がフィールド」と捉え、事業者の連携づくり、スタンプラリー、農業体験を一体的に行った。スタンプラリーには延べ約1,000人が参加し、30事業者・33か所が協力したほか、農業体験には80人が参加し、満足度は100%となった。周遊と地域の人との交流を組み合わせ、観光客を関係人口へつなげる取組となった。今後は、事業者の連携組織づくりを進め、滞在型観光への発展と安定した財源の確保が望まれる。
28	遠山郷から森林を生かした炭素循環農法による地域おこし事業	遠山郷観光協会（飯田市）	飯田市の遠山郷地域と隣接する静岡県浜松市天竜区水窪地域で連携し、耕作放棄地にて森林資源を活用した炭素循環農法（農薬や化学肥料を用いず、木や竹、枯草等を使って栽培する農法）により野菜を栽培し耕作放棄地を削減。 野菜の栽培や収穫を住民や観光客が体験できるよう機会を設けることで自然志向の観光客に向けた観光コンテンツ作りにつなげ、ともに農作業を通して耕作放棄地の削減に取り組む関係人口の創出を図った。 ①講師謝金、農業資材 ②耕運機	501	385	耕作放棄地と森林の廃材を活用し、化学肥料や農薬に頼らない炭素循環農法のモデル畑400㎡を整備した。県境を越えて水窪地域と連携し、農業体験や野草を学ぶ食事会を通じて、地域資源が循環する農業と交流の可能性を探った。参加者は計15人と目標を下回ったが、今後は低山登山などの体験と食を組み合わせ、近隣地域との連携や情報発信を充実させることで、農業体験の魅力向上と関係人口の広がりにつなげることが望まれる。
29	食の伝統文化継承を目指した器具整備事業	杉っ子	高齢化や人口減少の中、当団体は地域の食材を利用する地産地消を通じて、女性を中心とした地域コミュニティの形成を目指しており、地域の食材を使った商品を販売することで地域内の経済の循環、高齢者や女性の働き場所の確保と自走した活動を目指している。 従来家庭用の餅つき機で小規模に餅や大福の生産をしているところ、今回業務用餅つき機を整備し、生産性の向上を図り、会員外の女性も働き手として募集したことで、女性の雇用の場を創出。また、地産地消や伝統食の普及活動団体を団体内外のメンバーと図り、地域コミュニティとしても広げていく。 ①木製せいろ ②餅つき機	6,036	2,286	地域食材を活用した餅や大福の製造・販売を通じて、地産地消の推進と女性を中心とした地域コミュニティの形成を図る事業として評価。 今後は、さらなる業務用餅つき機の導入により生産性の向上や販路拡大が期待される。
30	「南信州ファーマーズマーケット」事業	南信州伝統野菜協議会	南信州地域の伝統野菜の継続的な生産や認知度向上、安定的な収入確保を目的に、各伝統野菜の生産者（や団体）と連携して「南信州ファーマーズマーケット」を開催。 令和7年度は年4回開催。マーケットの中では地域の飲食店による伝統野菜を使用した料理のキッチンカーを出店。また、伝統野菜を含まれる成分からPRするため、令和7年度はていざなすについて成分分析を行い、パンフレットに掲載してPRを行った。 ①会場費、運営委託費、広告料、成分分析費用	1,165	704	複数回（4回）のマーケット開催により、季節ごとの伝統野菜を広く紹介。生産者間の連携強化や地域飲食店との新たな協働を促進したことで、地域ブランドの向上、農業所得の確保、交流人口の拡大に寄与。伝統野菜の持続的な生産・継承につながる波及効果の高い事業。
31	有害鳥獣駆除で捕獲した鳥獣の未利用部位の有効活用事業	阿智村	野生鳥獣による農林業への被害が深刻化する中、有害鳥獣の捕獲推進を図り、捕獲した鹿の肉を食用やペット用に販売している。しかし、現在は一部の良い部位のみ高値で販売できているが、それ以外の部位や幼獣の肉は販売が難しかったり低価格での販売になってしまったりしている。 そこで機械を購入し、今まで有効活用できていなかった部位や幼獣の肉についてペット用のジャーキー（乾燥肉）に加工し商品化することで付加価値をつけ、未利用資源の活用と販路拡大、捕獲の推進につなげた。また、猟友会等と連携してジビエや有害鳥獣問題への啓発活動や講習会を実施し、捕獲頭数の増加につなげた。 ①商品開発のための分析費用、梱包袋 ②電気乾燥機、シール機、スライサー	1,807	1,367	有害鳥獣による農林業被害の抑制と、捕獲した鹿の有効活用を両立する取組として評価。 これまで十分に活用できていなかった部位や幼獣の肉をペット用ジャーキーとして商品化することで、未利用資源の付加価値向上や販路拡大につながり、ジビエ事業の収益性向上が期待。
32	焼肉文化の魅力発信による南信州地域の振興事業	南信州焼肉のまち協議会	「飯田焼肉」の知名度が広まりつつある中、南信州全域で一体となり南信州の焼肉文化を地域内外に発信し地域の活性化を図るため、南信州にある焼き肉店を個別に取材し、紹介する動画を製作してYouTubeに投稿。動画では各店舗の歴史や店主の思い、名物メニュー等を動画で取り上げた。 また、南信州いいだ焼き肉天国を開催し、出前焼肉の実施や野菜・果物等で焼き肉文化に関連のある出店の誘致、市町村長や焼肉大使であるニッチロー氏等を招いたステージイベントを実施した。 ①動画編集委託費、広告費、イベント開催費用（焼き肉セット、備品レンタル費、チラシ印刷費等）	3,545	2,475	南信州全域の焼肉文化を地域資源として捉え、飲食店や生産者、自治体等を巻き込みながら一体的な情報発信と誘客促進を図る事業として評価。 この度の動画配信により、店舗ごとの歴史や特色、店主の思いを可視化することで、将来的にも地域内外への認知度向上や来訪動機の創出が期待される。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円） 総事業費	事業費 （単位：千円） 交付額	講評
33	いいだ丘のうえ朝市地域活性化プロジェクト	飯田丘のうえ朝市実行委員会	飯田市街地の活性化にむけ、飯田市動物園の入場者の市街地への回遊促進と商店街の活性化、起業支援等を目的に、飯田市橋南地区、地元商店街有志、飯田市動物園がマルシェを開催。 会場は飯田市の公園、動物園、りんご並木にて行い、マルシェの開催に加えてHPの整備やSNSでの発信の強化、動物園を起点として市街地を回遊できる謎解きゲームの実施、商店街や特産品、出展企業の紹介広告の掲示、経営シミュレーションゲームによる実業家の育成、子育て世代が多く集えるよう授乳チェア等の備品の整備やレクリエーションの充実等を行った。 ①マルシェ備品（テーブル、チェア、ベンチ）、広報制作費 ②シャボン玉発生器、謎解きゲーム、サイネージ、大型テント、おむつ交換台、授乳ソファ	4,309	3,316	飯田市動物園を核として、公園、りんご並木、商店街を一体的に活用し、市街地への回遊促進と中心市街地の活性化を図る事業として評価。 商店街や出展事業者のPR、経営シミュレーションゲームによる起業人材の育成など、地域経済の活性化につながる要素を評価授乳スペースや各種備品の整備により子育て世代が参加しやすい環境を整えることで、多様な世代が集う交流拠点の形成にも寄与。
34	飯田下伊那合同企業説明会in名古屋	飯田職業安定協会	南信州地域では約7割の高校生が卒業後に地域を離れており、Uターン者の獲得が課題となっている。そこで、南信州地域から進学する高校生の約4割が東海地方に進学していることから、東海地方の中心である名古屋において飯田下伊那地域企業の合同企業説明会を実施。 主な対象は令和9年3月に卒業予定の大学生等とし、各企業の一覧を載せたガイドブックを作成し東海地方の各大学を訪問し周知を行ったり、インスタグラム等に広告を行うほか、保護者にも周知を行い、多くの参加者の獲得を目指した。 参加企業からは負担金を徴取し、次年度以降は負担金による自走を計画。 ①運営委託費、ガイドブック製作、広告費、会場費、郵送料等	4,816	1,715	南信州地域における若者の域外流出という課題に対し、進学者の多い東海圏を対象に地元企業との接点を創出し、Uターン就職の促進を図る事業として評価。
35	地域企業と学生の交流による地域の未来創生事業	しんきん若手経営者の会	南信州地域は高校卒業後進学等で地域を離れる学生が多く、その後のUターン者の獲得が課題となっている。 Uターン者の獲得に向け、南信州地域の学校にて企業がキャリア教育やものづくり等に関する出前授業を実施したり、経済の仕組みや多様な価値観を学べるワークショップや各企業ブースによる高校生と企業との交流ができるイベントを開催し、学生のキャリア教育に寄与しながら、地域の企業に関心を持ってもらい、将来のUターン者の増加を図った。 ①イベント開催費用、印刷費用	916	687	地域企業による出前授業や企業交流イベントを通じて、高校生のキャリア形成を支援しながら地域企業への理解促進を図る事業として評価。
36	南信州ママのやってみよう♪プロジェクト	ねやねや天龍峡mom smicle部	妊娠、出産後の女性は育児をしながら社会との接点がつくりづらく、選択肢が時短勤務のパート等に限られやりたいことやチャレンジしたいことに取り組めない女性が多くいる現状を踏まえて、mom（ママ）のsmile（笑顔）がcycle（循環）する地域づくりのため、地域の女性を対象に月3万円を稼ぐためのビジネスを学ぶ講座を実施。 講座の中では実際にやりたいビジネスを形にしていきながら、最終的には地域のイベントで実際に出店する取り組める実践の機会を創出。 また、次年度以降は卒業生が次年度の講座の企画に参加してもらいながら、地域の女性ビジネスのコミュニティを拡大し、女性がけん引する地域づくりを図る。 ①講座委託費、広告費、備品、視察旅費	3,301	2,619	専業主婦や育児休業中の女性を対象に、自身の得意なことや好きなことを活かして月3万円の収入を得るためのビジネスの仕組みを学ぶプログラム（全6回）であり、自己実現と地域貢献のため、9名の受講者の育成と活躍支援活動を行った内容を高く評価。受講者9名のうち4名は「子育てママサポーター」となり、来年度以降の受講者のサポート等を行っていく予定。また、プログラムの集大成として天龍峡で実際に店舗やワークショップを開き、受講者と地域住民（200名）をつなぐ仕組みも評価できる。さらに、事業終了後も、SNSフォローアップ講座（3回）や、相談会や研修会、開業・確定申告に係る講座等による重点的バックアップを実施し、受講者一人ひとりが自立してビジネスを継続していることから、事業の成果が着実に地域に根付いているといえる。 受講者9名のうち2名は、今年度、飯田市内の祭りにブースを出展し商品を販売しているほか、1名は阿南町の「おどもカフェ」において週1回のランチ営業やテイクアウト弁当の販売を行うなど、講座終了後もそれぞれが事業活動を継続している。
37	地域課題解決を通じたつながり人口創出事業	飯田市	地域課題の課題に共に取り組む関係人口の創出に向け、都市部に住む若者世代を中心に、地域で活躍するキーパーソンと出会い活動に携われる体験プログラムを提供。 3年目となる令和7年度は、令和6年度に続き特に里山・森林ビジネスや地域ビジネスに関心を寄せる参加者が、地域で活躍するキーパーソンとの出会いや、地方ならではの副業に触れる機会を創出する体験プログラム（山菜・野草の利活用、有機農法、間伐材、有害鳥獣等がテーマ）を実施。 また、令和7年度は新たに飯田市外でも里山・森林資源の活用に取り組むプレイヤーを招き、ディスカッション等を行うイベント（OPENDAY）を行った。 ①講師謝礼、会場使用料、企画運営委託料	2,052	1,588	飯田市とJR東海が連携し、一年を通じて体験プログラムを実施することで、参加者が地域との関わりを深める機会を創出した点は評価できる。一方で、目標に対してプログラムや報告会への参加人数が少なく、想定したターゲット層や地域への訴求が十分であったとは言い難いことから、費用対効果の面に課題が見られた。今後は、ターゲットを明確にした情報発信や参加促進策を強化し、より多くの関係人口の創出・拡大につながる取組となることが期待される。
38	多様な生き方、暮らし方、働き方でウエルビーイングな長野を	一般社団法人　暮らすroom's	女性のウェルビーイングの実現に向け、固定的な性別役割分担意識を変えることを目的に、「多様な生き方、暮らし方、働き方」を実践している方の座談会・ワークショップを開催し、内容を記事にまとめ発信。また、自分の強みを知るストレングスファインダーの研修会を実施し、地域活動における得意を生かしたリーダーの在り方等について考え実践する機会を提供し、リーダーの輩出を図った。 さらに、助産師が健康課題により自分らしく生きられない女性の窓口の話を聞く相談窓口を設置し、女性の健康課題についてオープンに話してもいいという雰囲気を醸成し、健康課題への認識を変え、ジェンダーギャップの解消につなげた。 ①講師謝礼、研修会委託費、会場費、消耗品費、広報費用	1,854	1,483	女性のウェルビーイングの向上及び固定的な性別役割分担意識の解消に向け、多様な生き方・働き方に触れる機会の創出、人材育成及び健康支援を一体的に実施した取組として評価できる。 一方で、参加者数や事業効果の広がりは限定的であり、地域全体への波及効果や費用対効果の面では課題が見られた。今後は、事業手法の見直しや成果の可視化を図るとともに、より多くの住民の行動変容や意識醸成につながる取組となることが期待される。

番号	事業名	申請者	事業内容 （主な用途 ①：ソフト事業 ②：ハード事業）	事業費 （単位：千円）		講評
				総事業費	交付額	
39	肩の力を抜いていこう！～時短レシピ講座～	高森町	男女共同参画社会の実現に向け、町民へ家事負担のアンケートを実施したところ、食事の支度が最も家事負担となっているという回答があった。 そこで、町民を対象に「時短調理」について講師を招きライブキッチン形式で学ぶことができる講座を年4回開催し、食事の支度時間を短縮する工夫について学びながら、各家庭なりに省力化する方法を考えてもらうきっかけとした。受講後1か月後にアンケートを実施し、食事の負担感の変化や家族での家事分担の変化等について確認。 ①講師謝礼・旅費、材料費	482	306	家事負担に関する実態調査を踏まえ、最も負担感の大きい「食事の支度」に着目して、時短調理の実践的な手法を学ぶ機会を提供する事業として評価。 具体的な行動変容につながるよう、今後のフォローアップが必要。
40	参加型滞在拠点創出事業	売木村	村内の空き家を改修し、関係人口や二地域居住者が生活の場として滞在できる滞在拠点の整備を行うプロジェクト。 令和7年度は都市部で関係人口や二地域居住をPRするイベントを開催し、イベントの中で理想の滞在拠点等を検討するワークショップを実施。また、地域内外の人を対象に村内で空き家再生の事例を学ぶ古民家ツアーや実際に空き家でDIYを行うワークショップを開催。 これらにより、滞在拠点整備のプロジェクト自体を関係人口の増加に活用するとともに、地域内外の人の意見を取り入れた滞在拠点の案を作成し、令和8年度に実際に整備を行う。 ①ワークショップ開催経費（委託料、講師謝金、広告宣伝費）、滞在拠点計画作成（業務委託費）	1,907	1,481	東京と売木村のそれぞれでワークショップを行い、平日開催などにも関わらず、参加人数が多く、充分に事業の周知ができていた。肝心の整備する空き家の選定などが進んでおらず、事業の進捗について今一度見直し、工夫をする必要がある。